

授業科目 成人言語障害学II

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	言語
渡 辺 真 澄		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：GIO】 成人脳損傷者のリハビリテーションチームに専門職として参加するため、失語を中心にしてその言語治療の具体的方法を習得し失語患者のコミュニケーションの改善に向けて行うさまざまな援助の方法を習得する。 失語を対象にした言語治療の具体的方法を習得して実践するため、種々の技法を実習する。					
【学習目標】 1. 失語の言語治療テクニックを列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 2. 失語の言語治療の流れを理解し、初回評価から訓練終了時までに行うべき臨床活動を述べることができる。 3. 失語の具体的症例に対して訓練計画を立案する際の要点を説明できる。 4. 失語の言語訓練材料を列挙し、その適応について説明できる。 5. 地域での言語リハビリテーションの実態について説明できる。 6. 失語の評価結果を基にして、言語治療計画が立案できる 7. 代表的な言語治療（訓練）技法を模擬的に実施できる。 8. 言語訓練教材を言語症状に合わせて作成できる。 9. 言語治療報告書を用途に応じて作成できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	失語の言語治療の方法と適応（１）			1, 2	講義、DVD、プリント
2	失語の言語治療の方法と適応（２）			1, 2	講義、DVD、プリント
3	失語の言語治療の方法と適応（３）			1, 2	講義、DVD、プリント
4	言語治療計画の立て方			3	講義、DVD、プリント
5	言語治療の実際（症例検討）			3	講義、DVD、プリント
6	言語訓練教材の種類と開発			4	講義、DVD、プリント
7	地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割			5	講義、DVD、プリント
8	具体的な言語治療計画の例を分析する			6	講義、DVD、プリント
9	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。			7	演習
10	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。			7	演習
11	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。			7	演習
12	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。			7	演習
13	言語訓練教材を作成する。			8	演習
14	具体的な言語治療報告書を分析し、模擬的に報告書を書く。			9	演習
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	失語症臨床ガイド		竹内愛子 編集	協同医書出版社	2003・5,500円＋税
	脳卒中後の コミュニケーション障害		竹内愛子、河内十郎編著	協同医書出版社	1995・5,600円
参考書	よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション		鹿島晴雄、大東祥孝、種村純 編集	永井書店	2008・10,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 出席と定期試験で評価する。			【履修上の留意点】		